

令和6年度 第2回うつのみや産業振興協議会 議事録

1 日 時 令和7年2月19日（水） 午前10時00分～11時30分

2 場 所 宇都宮市中央生涯学習センター 205・206室

3 議 事 (1) 「うつのみや産業振興ビジョン」の進捗について
(2) 特定テーマについて
地域資源の更なる活用について

4 出席者委員（17名）

- ・ 宇都宮まちづくり推進機構 須賀委員＜会長＞
- ・ 宇都宮商工会議所 小関委員＜副会長＞
- ・ 宇都宮農業協同組合 見形委員
- ・ 株式会社ファーマーズ・フォレスト 松本委員
- ・ 株式会社ジェイテクトファインテック 石井委員代理
- ・ 株式会社オニックスジャパン 大西委員
- ・ 株式会社SUBARU 航空宇宙カンパニー 坂部委員
- ・ 株式会社東武宇都宮百貨店 星委員
- ・ 東日本電信電話株式会社 栃木支店 松川委員代理
- ・ 株式会社JTB 宇都宮支店 斉藤委員代理
- ・ サイクルスポートマネジメント株式会社 柿沼委員
- ・ 株式会社栃木サッカークラブ 橋本委員
- ・ 公益財団法人栃木県産業振興センター 篠原委員
- ・ 株式会社あしぎん総合研究所 太田委員
- ・ 国立大学法人宇都宮大学 イノベーション支援センター 平田委員
- ・ 栃木労働局 平井委員
- ・ 宇都宮市経済部 鈴木委員 (順不同)

5 主な御意見

(1) 「うつのみや産業振興ビジョン」の進捗について

重点施策1：本市産業を発展させる新事業、成長産業の振興について

- ・ 限られた人材で生産性を上げるためには、D Xの推進が必要であり、その促進のため、企業のD X推進のためのハード整備に対する補助制度などの支援があると良いと考えている。
- ・ 大学としては、産学官連携によるD X推進に関する知見の提供といったサポートが考えられるが、大学においても人手が不足しており、そのような実情を共有した上で連携の在り方を考える必要があると考えている。

重点施策2：産業集積を高める企業の立地・定着の促進について

- ・ 産業用地を新たに整備して企業誘致を行っていく場合、周辺のサプライヤー等との人材の奪い合いを防ぐために、同時に労働人口を増加させる戦略についても検討していく必要があると考えている。
- ・ 遊休農地の問題について、農地経営の大規模化の促進などに市が取り組むことで、農業に参入する企業が増え、その解消に繋がっていくことを期待している。

重点施策3：本市産業を支える中小・小規模企業、地場産業等の振興について

- ・ 中心市街地の商店街の支援については、安全対策強化などの「守り」の支援も重要であるが、ライトラインの駅西側延伸が計画されている中で、域外に魅力を発信していくための「攻め」の支援も必要と考えている。
- ・ 機材の価格高騰が進む中で、中小企業のD X化やA Iの活用を促進させるためには、市や関係機関による支援が必要と考えている。
- ・ スマート農業の普及については、営農者の約8割が中小規模の農家であり、コスト負担が課題となっている。
- ・ 農業の生産性の改善については、後継者のいない農地を買い、農地経営面積を拡大させる動きがあるが、人手不足もあり、なかなか難しい状況である。持続可能な農業の発展のためには、営農規模の大小によらず、D X化などの省力化を活用できる環境を整備し、戦略的に生産性を改善していくことが重要と考えている。
- ・ 近年、国において中堅企業の支援に取り組んでいる中、宇都宮市でも、市内の中小企業の成長をいかにサポートできるかが重要と考えている。
- ・ 昨今の原材料費や燃料費の高騰に加え、人材を確保するための人件費の高騰などにより、中小企業の経営は圧迫されている。

重点施策 4：地域資源を最大限に活かす産業の総合力の向上について

- ・ 国際スポーツイベント等について、開始当初の大きなインパクトを持続させ、今後の取組につなげていくためには、積極的な「攻め」の姿勢が重要であると考えている。
- ・ ライトラインをはじめとするまちづくりの進展により、宇都宮市の認知度が高まっている中において、市内での消費を促すため、来訪者が実際にどこで、どのように行動しているかを把握することが重要であると考えている。

重点施策 5：産業活動の源となる人材の確保と育成について

- ・ 後継者不足が大きな課題となっている。関係機関には引き続き、「事業承継セミナー」をはじめ、経営支援と人材確保・育成を含めた支援の周知・検討に取り組んでもらいたい。
- ・ 人材を募集しても応募がない、採用後の育成に時間を要するなど、人手不足にも企業によって様々な事情があるため、企業のニーズを個別に聞き取った上で、関係機関が支援を検討していく必要がある。
- ・ 人手不足の要因の一つとして、自由に隙間時間で働きたいという考えの人が増えていることから、働く側のニーズを考慮した施策を考えていく必要がある。
- ・ 人材の確保については、栃木県からの委託を受け、ECサイトの充実などの小さな課題ごとに、専門知識を持つプロフェッショナル人材を斡旋する施策を行っている。
また、最近では県内企業も高度外国人材活用の取組を促進しており、既に日本で生活している外国人のほか、母国で就労・就学している外国人を日本国内企業に斡旋する動きもある。
- ・ 人材の確保と育成に対する支援について、大学生を対象とした短期的な支援や、高校生を対象とした長い目で見えた支援に加え、地元企業での職場体験など、小学生や中学生を対象とした意識付けの取組強化が重要であるとする。
- ・ 人材の育成について、最近では市が小学生を対象に、職業観や勤労観の形成を目的とした事業に取り組んでおり、地元愛を育む非常に良い取組であると感じている。

(2) 地域資源の更なる活用について

- ・ 地域資源の中でもスポーツは非常に分かりやすい素材であり、最近の若者は以前にも増して社会への貢献を重要視しているため、スポーツと社会課題を掛け合わせた仕掛けづくりをすることで、人材の確保にもつながると考えている。
- ・ 市とスポーツチームの連携においては、プロスポーツのビジネス構造を考慮し取り組むことで、「プロスポーツのまち」として、より効果的な連携が可能になると考えている。
- ・ 観光業者と様々な業種が連携し、「スポーツツーリズム」や「産業観光」等に取り組むことは、地域の魅力を高め、市内に人を呼び込むきっかけとなるため、連携の機会づくりなどに官民で役割を分担して取り組んでいければと考えている。

- ・ 宇都宮市の観光資源については、個々の魅力は高まっている反面、それらを面でカバーできていないことが、今の課題だと感じている。北西部地域についても、全体が一つのエンターテインメントシティとなるように取り組むべきであり、同業に限らず様々な産業と連携し、一体的に作り上げていく必要があると考えている。
- ・ ライトキューブ宇都宮ができ、大規模な学会が開催可能となったが、学会の実情に合わせた支援が必要と考えている。
- ・ 「東部総合公園（アークタウン宇都宮）」等の新たな地域資源の整備を活かし、市外・県外の人を呼び込むために、わざわざ宇都宮市に来たいと思わせるような付加価値をつけ、大きく情報を発信していくことが重要であると考えている。
- ・ 新たな地域資源となる「宇都宮中央卸売市場賑わいエリア」には、ぜひ、食文化の発信基地になってもらいたい。地元の食材を用いたオリジナルの商品など、地域で盛り上げていきたい。
- ・ 地方の百貨店の強みは、生産者の背景を見せながら地域の品を取り扱っていただける点にあり、支援機関と連携して、魅力ある地域のものを見つけ出し、取り扱うことで、東京からの訪問者などに地域の魅力を伝える場にしたいと考えている。
- ・ 多くの産業団地や日本を代表する企業の立地も宇都宮市の地域資源であり、これらの立地を活かして、市内中小企業とのオープンラボを通じた連携などを促進することにより、人材の確保につながるものと考えている。
- ・ 県庁所在地として、人口や公的機能が集中していることも宇都宮市の地域資源であり、周辺自治体との連携も重要であると考えている。
- ・ 中小企業の隠れた技術についても、地域資源と合わせて情報発信してはどうか。
- ・ J R 東日本が 2031 年度の開業を目指して計画を進めている「羽田空港アクセス線」の整備は、ビジネス客や観光客を誘引する大きなチャンスとなるため、今のうちから地域資源をうまく活用し、宇都宮市の魅力向上を図っていく必要がある。
- ・ 地域資源の情報発信については、テーマを掛け合わせることが重要であり、分野横断的な取組みに向けた、関係機関による機会づくりの支援があるとよいと考えている。
- ・ 地域資源の魅力をどの世代に、どのように打ち出していくのかが重要である。それにより、労働力の呼び込みにもつながると考えている。